

「和解の務め」

1. はじめに

コリントでのパウロの悩み—教会内のクリスチャンユダヤ教主義者の動向

- ・パウロはユダヤ教主義者への弁明を通して、コリント教会の正しい信仰を求めている。
- ・イエスの十字架と復活を神の人間に対する和解と解釈する。
- ・イエスは律法を成就される。

2. 本文—全体的にはユダヤ主義者への弁明の文脈の中で。

弁明 (11 ~ 13 節)

- ・言い訳ではない。

新生 (15 ~ 17 節)

- ・パウロは信仰を「キリストのうちにあるなら」というように、「新しく生れる」ことから説明している。
  - ・信仰 (信じる) → (語源的にはイエスの中に自分の存在を置く。)
  - ・主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。(使徒 16 : 31)
- 日本人的な「イワシの頭も信心から」ではない。
- 悔い改めは聖霊の力を得る準備である。
- 新生は聖霊の力を得た信仰経験である。

(18 ~ 21 節)

パウロは十字架と復活を神の人間に対する和解と解釈する。

和解

2つの説明

- ・イエス様は人の罪を負い、十字架の死によって、人の罪を贖って下さった。→救われた。
- ・神はキリストによって、私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました。(18 節)

和解の務め

- ・宣教・伝道
- ・使徒の務め

3. 終わりに

- ・宣教・伝道とはなにかの問い→ユダヤ教主義者
- ・クリスチャンとはキリストの使節である。